

# 農村ビジネス 元気な姿紹介

三重の町おこしレポート

三重県阿山町。人口約八千五百人の町で若い人スの様子をレポートしたたちが働いて、五十万人「伊賀の里 新農業ビジネス」をお客を集め、売り上げネスただいま大奮闘（金は二十五億円。その中心丸弘美著、発行・NAP、）になったのが養豚家を中心にした。輸入豚に押される国産人「伊賀の里モクモク手づくりファーム」だ。豚をなんとかしたいと、

「伊賀の里 新農業ビジネスただいま大奮闘」の表紙



農家自ら肉を販売。やがとしてレストラン経営に  
て手作りのハム、ソーセージまで手を広げ、町に多く  
ージを売る。小麦からピザの人を呼ぶようになっ  
ールを造り、パンを焼く。た。



お客を集めるきつかけ  
になったのは、消費者か  
ら提案されたソーセージ  
教室だった。これが作り  
手、食材、そして消費者  
との顔の見える関係を生  
み出し、大きな農業ビジ  
ネスへと発展していく。  
また、BSE（牛海綿

これまでの生産者は作  
るだけ、メーカーが加工  
品、メーカーなどの偽装  
し売る、という一方通行  
の食のあり方を変え、町  
そのものさえ変えてしま  
う。この変化の様子が  
生き生きとした筆遣いで  
紹介されている。  
若者が定着しない、特  
産品がない、観光資源が  
ない、人が集まらない、  
と嘆くばかりの市町村が  
多い中で、一つの町おこ  
しの回答がここにある、  
と著者の金丸。

状態、狂牛病）大手食が、本書は今の食品業  
品、偽装品、偽造品、偽造品への痛快な「回答」  
事件が続出し真の食の安全が求められている。だ。

山 陰 新 聞

2002年(平成14年)7月22日 月曜日